

【提出意見】

宇津川 喬子（奈良女子大学）

資料3 ページ

- (2) デジタル学習基盤の活用に関する課題
- (4) AI などデジタル技術の発展に関する課題

および資料4～5 ページ

- (3) デジタル学習基盤を活用した学習の充実
- (4) 社会科における AI 活用の考え方 に関連して

WG 中の委員のご発言を伺っていて、教育現場への AI 導入の抵抗感があまりにも小さいことに正直驚きました。

児童・生徒の課題探究において、そこまで「効率的に」行う必要は果たしてあるのでしょうか。

加速度的な（ある意味で方向性の不確かな）AI の進歩に教育現場が振り回されることがあってはならず、また AI を含めたデジタルな媒体がなくても、自分自身で思考して課題探究ができる能力を育てたり、間がかかっても確かな情報を収集する能力を大人から次世代へ継承する機会がなければいざというときにどのように自分の身を守ることができるのか、甚だ疑問です。

私は、特に小・中の義務教育の期間では敢えて「非効率的な」課題解決・課題探究のプロセスを重視したその上で同時に倫理面を含めた AI リテラシーを学ぶ機会を別に設けるべきだと考えます。

他の科目よりも社会科はなおのこと、デジタル技術と切り離れた学習機会も次世代に与える必要があると考えます。（絶対に行うべきではないという意見ではなく、デジタル技術を用いない場合の学習機会が軽視されることを危惧しています）

AI やデジタル技術は便利で「わかりやすく」すぐに慣れることができます。（蛇足かもしれませんが、私は小学生時代に突然視聴覚室が PC ルームに変わり、学習に PC が入ってきて順応した世代です）

学習におけるデジタル技術への順応は高校生以降でも十分にできると思います。

今回の資料ではあまり具体的には明記されていませんでしたが、AI 活用に関しては教員の指導力による部分も大きく、少なくとも、小・中学生への教育への活用には慎重になるべきではないかと考えます。

AI 技術はあまりにも現代社会への侵食力が強く、大人ですら AI の利用には（原則）試行錯誤を要し、翻弄され、場合によっては失敗しているのにもかかわらず、児童・生徒を積極的に危険にさらすことは無責任ではないでしょうか。

昨今の情勢を鑑みると、指導要領でふれないわけにはいかないのですが、せめて「既存の文献資料に基づいた課題追究をベースにしつつ」としてはいかがでしょうか。指導要領を通して、不確かな情報化社会から児童・生徒を守る意思を示す必要があるとも考えます。

なお、現場の教員が望んで AI 等を用いた効率的な授業準備や情報収集をすることは良いと思っております。